

Contents

演劇芸術監督 宮田慶子	2
2017/2018シーズン 演劇 ラインアップ	3
トロイ戦争は起こらない	4
プライムたちの夜	7
かがみのかなたはたなかのなかに	10
赤道の下のマクベス	13
1984	16
ヘンリー五世	20
夢の裂け目	22
蓬萊竜太新作	24
公演一覧(1997.10～2017.7)	27

2017/2018 シーズン 演劇

演劇芸術監督 宮田慶子



世界を映し出す

2017/2018シーズンは、独創的で、骨太な演目が並びます。

新国立劇場開場20周年を飾るにふさわしく、そしてまた、私の芸術監督任期の最後の年を締めくくる、充実したラインアップになりました。

シーズン開幕の10月は、上演が念願であった、ジャン・ジロドゥの傑作『トロイ戦争は起こらない』が、ついに栗山民也・演出、岩切正一郎・翻訳によって実現します。ギリシャ古典にあるトロイ戦争の史実を巡り、第2次世界大戦直前の世界情勢を反映して描かれた作品が、さらには、まさに現代の世界情勢と一本の線につながってきます。

11月は2014年のピュリッツァー賞最終候補作品『プライムたちの夜』を、日本初演で上演します。夫婦、家族、老い、人間の尊厳、永遠、などについて、近未来の発想から描きながら、人生の真の姿を問いかけてくる秀作です。

12月は、2015年に大人も子どもも楽しめる舞台として、熱い拍手を頂いた『かがみのかなたはたなかのなかに』が、おなじみのキャストで、クリスマス公演として再登場します。かがみのむこうにいるのはだれなのか・・・。「ことば」と「からだ」が紡ぎだす、不思議な世界をお楽しみください。

そして3月には、2015/16シーズンの「三部作」の熱い舞台の記憶が鮮明に残る、「日本の影の昭和史」を書き続ける鄭義信による『赤道の下のマクベス』が登場します。終戦後のシンガポール・チャンギ刑務所に収監された日本人と元日本人だった朝鮮人の姿を通して、アジアと戦争を見つめ直します。

4月は、1948年に執筆されたジョージ・オーウェルの傑作小説を基に戯曲化され、2014年にオリヴィエ賞にノミネートされた意欲作『1984』。次期演劇芸術監督に就く、小川絵梨子が演出にあたります。全体主義国家によって分割統治された近未来の恐怖を描いた小説『1984』は、世界中の思想、文学、音楽などに大きな影響を与えました。その「附録」を中心に戯曲化された舞台は、より現代社会への警鐘と共通点を浮かび上がらせます。

5月は、『ヘンリー六世』三部作、『リチャード三世』『ヘンリー四世』二部作に続き、ついに『ヘンリー五世』を上演します。おなじみのキャスト・スタッフが集結し、壮大な歴史劇が人間と社会の本質に迫ります。

6月は2010年に「東京裁判三部作」として上演した、井上ひさし・作『夢の裂け目』を、キャストをほぼ一新して再演します。新国立劇場演劇にはゆかりの深い井上ひさし作品を、開場20周年に上演できる事を幸せに思うと同時に、作品のメッセージの鋭さに、改めて、演劇の意味や仕事を考えさせられ、身の引締まる想いがします。

そして、7月のシーズン最後を飾るのは、蓬萊竜太の書き下ろしです。『まほろば』（2008・2012）、『エネミイ』（2010）に引き続き、濃密なタグを組む新作です。

時代を超え、国や地域を越え、まさに世界を映し出す「演劇」本来の力と魅力を、存分にお楽しみ頂きたいと思います。

〈プロフィール〉

1980年、劇団青年座（文芸部）に入団。83年青年座スタジオ公演『ひといきといき』の作・演出でデビュー。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。公益社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。主な受賞歴に、94年第29回紀伊国屋演劇賞個人賞（青年座『MOTHER』）、97年第5回読売演劇大賞優秀演出家賞（青年座『フユヒコ』）、98年芸術選奨文部大臣新人賞（新国立劇場『ディア・ライアー』）、2001年第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞（青年座『赤シャツ』『悔しい女』、松竹『サラ』）など。上記以外の主な演出作品に、青年座『ブンナよ、木からおいてこい』『妻と社長と丸ちゃん』『をんな善哉』、松竹『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『ガブリエル・シャネル』、ホリプロ『ノイズズオフ』『エレファントマン』『ペテン師と詐欺師』、パルコ『ふたたびの恋』『LOVE30』など。新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』を演出。芸術監督就任後は2010/2011シーズン『ヘッダ・ガーブレル』『わが町』『おどくみ』、2011/2012 シーズン『朱雀家の滅亡』『負傷者16人— SIXTEEN WOUNDED—』、2012/2013 シーズン『るつぼ』『長い墓標の列』『つく、きえる』、2013/2014 シーズン『ピグマリオン』『永遠の瞬間— Time Stands Still—』、2014/2015 シーズン『三文オペラ』『海の夫人』。2015/2016 シーズン『パッション』『「かぐや姫伝説」より 月・こうこう、風・そうそう』、2016/2017シーズン『君が人生の時』。また、オペラ部門では『沈黙』（12・15年）を演出。16年4月より新国立劇場演劇研修所所長。

Drama

新国立劇場 開場 20 周年記念

2017/2018 シーズン 演劇 ラインアップ
〈計8演目〉

2017 年 10 月

新訳上演

トロイ戦争は起こらない

作: ジャン・ジロドゥ
翻訳: 岩切正一郎
演出: 栗山民也

2017 年 11 月

日本初演

プライムたちの夜

作: ジョーダン・ハリソン
翻訳: 常田景子
演出: 宮田慶子

2017 年 12 月

再演

かがみのかなたはたなかのなかに

作・演出: 長塚圭史
振付・音楽: 近藤良平

2018 年 3 月

日本初演

赤道の下のマクベス

作・演出: 鄭 義信

2018 年 4 月～5 月

日本初演

1984

原作: ジョージ・オーウェル
作: ロバート・アイク、ダンカン・マクミラン
翻訳: 平川大作
演出: 小川絵梨子

2018 年 5 月～6 月

ヘンリー五世

作: ウィリアム・シェイクスピア
翻訳: 小田島雄志
演出: 鶴山 仁

2018 年 6 月

再演

夢の裂け目

作: 井上ひさし
演出: 栗山民也

2018 年 7 月

新作

蓬萊竜太新作

作: 蓬萊竜太
演出: 宮田慶子

2017 年 10 月

<新訳上演>

New Translation

トロイ戦争は起こらない

La Guerre de Troie n'aura pas lieu

(The Trojan War Will Not Take Place)

中劇場

●会員先行販売期間：2017 年 7/22(土)～8/2(水)

●一般発売日：2017 年 8/6(日)

作：ジャン・ジロドゥ

Written by Jean GIRAUDOUX

翻訳：岩切正一郎

Translated by IWAKIRI Shoichiro

演出：栗山民也

Directed by KURIYAMA Tamiya

出演：鈴木亮平 一路真輝 鈴木 杏 谷田 歩 川久保拓司 金子由之 大鷹明良 三田和代 ほか

Cast : SUZUKI Ryohei, ICHIRO Maki, SUZUKI Anne, TANIDA Ayumi, KAWAKUBO Takuji, KANEKO Yoshiyuki, OHTAKA Akira, MITA Kazuyo and others

企画意図

新国立劇場、宮田慶子演劇芸術監督のラストシーズンとなる、2017/2018 シーズン。そのオープニングを飾るのは、フランスの名作『トロイ戦争は起こらない』です。今も世界の演劇史に燦然と名を残すジャン・ジロドゥ不朽の名作に、栗山民也が初めて挑みます。

1944年に死去したジロドゥは小説家、劇作家のほか、フランス外務省の高官としても活躍し、情報局総裁まで務めました。そんなジロドゥが1935年、ナチスドイツが台頭する中、戦争に突き進む人間の愚かしさをあぶり出し、平和への望みをかけて書いたのが、本作『トロイ戦争は起こらない』です。外交官としての冷徹な目と、詩人としての想像力が光る傑作として、今も世界各地で上演され続けている名作です。

作 品

永年にわたる戦争に終わりを告げ、ようやく平和が訪れたトロイの国。

夫である、トロイの王子・エクトールの帰りを待つアンドロマック。しかし、義妹のカッサンドルは再び戦争が始まるという不吉な予言をする。

一方、エクトールとカッサンドルの弟・パリスは、ギリシャ王妃・絶世の美女エレーヌの虜となり、戦争の混乱に紛れてギリシャから彼女を誘拐してしまう。妻を奪われ、名誉を汚されたギリシャ国王・メネラスは激怒し、「エレーヌを返すか、われわれ、ギリシャ連合軍と戦うか」とトロイに迫る。しかし、彼らの父であるトロイ王・プリアムやそのとりまきたちは、たとえ再び戦争を起こしてでもエレーヌを返すまいとする。

幾度にもわたる戦場での生活に、戦争の虚しさを感じていたエクトールは、平和を維持するためにエレーヌを返そう、と説得するが、誰も耳を貸そうとはしない。

とうとう、エレーヌ引渡し交渉の最後の使者・ギリシャの知将オデュッセウスがやってくる。果たして戦争の門を閉じることはできるのか。あるいは、トロイ戦争は起こってしまうのだろうか。宿命の罫は、愚かな人間たちが囚われ堕ちていくのを静かに狙っている――。

翻訳家からのメッセージ

岩切正一郎

ジロドゥの戯曲『トロイ戦争は起こらない』は1935年に書かれ初演された。第一次大戦の記憶はまだ生々しく、やがて第二次大戦の勃発へいたる危険な国際政治情勢の暗雲がたちこめはじめる、不穏な時期だ。ホメロスの『イリアス』に歌われる名高いトロイ戦争が起こる直前、ギリシャの外交使節としてオデュッセウスがトロイに上陸する一日、国の命運が掛かる一日を舞台の時間としている。トロイの宮廷において戦争推進派の国王プリアムや詩人デモコスたち（そこには気分を煽られる民衆も加わる）と、平和を求める王子で勇者のエクトールや女たちの対立を軸に、ジロドゥは、愛国心、戦争、平和、夫婦の愛、恋愛、外交、運命、民族、といった普遍的な問題、つまり、古代から現在まで、われわれを抜き差しならない形で、しかも日常生活のレベルにおいて捉えている問題を、観客へはっきりと呈示する。

このように重厚なテーマを扱う芝居ではあるけれど、そのセリフは、ウィットに富む丁々発止のやりとり、ピリッと辛みのきいた皮肉、悲劇的な暗さをたたえた緊張感あふれるトーン、などなど、多彩な響きに満ちている。ある本によれば、この芝居をフランス語で演じる俳優は、みずからも美しい言葉愛する者、詩人、音楽家でなければならない、という。ということは、日本語のセリフからもそれが立ち上って来なくてはならない、ということだ。そのために全感覚を研ぎ澄ませて訳の言葉を作っていこうと思う。

演出家からのメッセージ

栗山民也

世界最古の物語といわれる長編叙事詩『イリアス』を、数年前に舞台化した。その分厚い上下二巻の文庫本を読みすすめるうちに、わたしを強く惹き付けたのは、この叙事詩が人から人へ、その「声」と「言葉」で長く語り継がれてきた、口承文学だということだった。

作品のキーワードがいくつも思い浮かぶ。戦争、暴力、権力、家族、愛、そして孤独。それらは、ギリシャの昔から今のわたしたちにも繋がれ、共有するものだ。そして、その神話から引き継がれるように生まれたのが、今回の『トロイ戦争は起こらない』である。1935年にフランスの劇作家ジャン・ジロドゥによって書かれたこの戯曲は、第二次世界大戦勃発の危機を予感し、力強く、詩的にも醜く歪んだ光景の数々を映し出す。そして、そこに今も続く、愚かな戦争が炙り出されてくる。

スタッフ プロフィール

ジャン・ジロドゥ

Jean GIRAUDOUX

フランスの外交官、小説家、劇作家。1882年－1944年。

フランス中部の田舎町ベラック生まれ。パリの高等師範学校でドイツ文学を専攻し、卒業後はハーバード大学講師、仏ル・マタン紙文芸記者を経て、フランス外務省に就職、そのかたわら小説を発表し注目される。第一次世界大戦中は軍曹として出征し二度にわたって負傷、さらに陸軍教官としてポルトガルとアメリカに渡る。1917年フランスに帰国し外務省に復帰、小説を発表し続け、22年に出版した小説『ジークフリートとリムーザン人』はバルザック賞を受賞。28年に初の戯曲『ジークフリート』が初演され、以降『トロイ戦争は起こらない』『エレクトル』『オンディーヌ』等数々の戯曲を執筆する。40年、内閣の退陣とともに外務省を辞職。44年、尿毒症のためパリにて急死する。翌45年、占領下で執筆された『シャイヨの狂女』がパリにて初演された。

岩切正一郎

IWAKIRI Shoichiro

1959年、宮崎県生まれ。フランス文学者。国際基督教大学教授。

戯曲の翻訳に『ひばり』（ジャン・アヌイ）、『カリギュラ』（アルベール・カミュ）、など。

著書に『さなぎとイマーゴ：ボードレールの詩学』、翻訳書に『ノアノア』（ポール・ゴーギャン）、『世界文学空間 文学資本と文学革命』（パスカル・カザノヴァ）など。2008年、『ひばり』と『カリギュラ』の翻訳によって、優れた戯曲翻訳に贈られる湯浅芳子賞を受賞。新国立劇場では『ゴドーを待ちながら』（2011年、演出・森新太郎）、『アルトナの幽閉者』（2014年、演出・上村聡史）の翻訳を手掛けている。



栗山民也

KURIYAMA Tamiya

早稲田大学文学部演劇科卒業。主な演出作品に『GHETTO／ゲットー』『きらめく星座』『海をゆく者』『組曲虐殺』『スリル・ミー』『ピアフ』『葎原検校』『アルカディア』『ディスグレイスト 恥辱』などがある。紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、毎日芸術賞千田是也賞、朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞。新国立劇場では『今宵限りは…』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『桜の園』『浮標』『夢の泪』『涙の谷、銀河の丘』『世阿彌』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・肝っ玉とその子供たち』『夢の痴』『CLEANSKINS／きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』『雨』『マニラ瑞穂記』『あわれ彼女は娼婦』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。著書に『演出家の仕事』（岩波書店刊）。新国立劇場演劇芸術監督を7シーズン務め、また2005年4月から16年3月まで新国立劇場演劇研究所所長を務めた。13年春、紫綬褒章受章。



プライムたちの夜

2017 年 11 月
＜日本初演＞
Japan Premiere

Marjorie Prime
小劇場

●会員先行販売期間：2017 年 8/26(土)～9/5(火)
●一般発売日：2017 年 9/9(土)

作：ジョーダン・ハリソン

Written by Jordan HARRISON

翻訳：常田景子

Translated by TSUNEDA Keiko

演出：宮田慶子

Directed by MIYATA Keiko

出演：浅丘ルリ子 香寿たつき 佐川和正 相島一之

Cast : ASAOKA Ruriko, KOHJU Tatsuki, SAGAWA Kazumasa, AIJIMA Kazuyuki

企画意図

2012年『負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—』、14年『永遠の一瞬—Time Stands Still—』、15年『バグダッド動物園のベンガルタイガー』、16年『フリック』に続く、現代欧米戯曲の日本初演作品を上演する企画。その第5弾として、アメリカの新進作家、ジョーダン・ハリソンの『プライムたちの夜』（原題：Marjorie Prime）を上演いたします。

このシリーズでは、世界の「今」にこだわり、同時代に世界各地で起きている様々な問題を、ときにシリアスに、ときにコミカルに描いた戯曲を選んで公演してまいりました。今回上演する『プライムたちの夜』も、4人の登場人物の会話からその背後にある、人類だれもが等しく経験する普遍的な問題、「老い」というテーマが浮かび上がってきます。

このシリーズでは過去に二度、上演を果たした翻訳の常田景子と演出の宮田慶子がみたび、世界の「今」に挑みます。

作 品

とある家の居間、85歳のマージョリーが、30代のハンサムな男性と会話している。昔観た映画の話から二人の思い出に話が及ぶと、少しずつその内容に齟齬が生じ、マージョリーは戸惑い始める。やがて、明らかになる二人の関係は……。

翻訳家からのメッセージ

常田景子

この戯曲は、1977 年生まれの人物が 85 才の人間の記憶を持っている、という設定なので、21 世紀半ば過ぎが舞台になっています。近未来を描いた SF と言いたいところですが、作者は、この戯曲を「SFとは思わない」と書いています。あと 50 年も経てば、この芝居に出てくるような製品が実用化されるかもしれない。そして、そんな製品があれば、人々は買うかもしれないと思わせるリアリティがあるのは、そのくらいの歳月では、そんなに変わらないだろうと思われる人間の深い感情や欲求が、描かれているからでしょう。愛する人を亡くしたあと、悲しみとともに後悔が残ることが、ままありますが、やり直すことはできるのでしょうか。さりげない会話の中に、ふと差しはさまれる違和感。それが観客の興味を引きつけていきます。また、この芝居は、記憶についての物語でもあります。人は、生きていく中で記憶を塗り替えます。また、忘れてしまうこともあります。誰かに語った記憶が、語られた人の中に、少し形を変えて残ることもあります。自分の中に蓄積されている多くの記憶について思いをはせ、生きているということと、自分を取り巻く人々のかけがえのなさに改めて気づかされる戯曲です。

演出家からのメッセージ

宮田慶子

幼いころ・・・つまりは半世紀以上も昔、テレビの白黒画面のなかの「鉄腕アトム」の活躍に釘付けだった。アトムは人間が作り出した「ロボット」でありながらも、その完璧な人工知能は、時には人間よりも人間らしい「優しくまっすぐな心」を持っていた。

今や私たちの生活の中には、さまざまな形の「ロボット」が入り込み、「人型ロボット」の進化もめざましく、いまや外見では「人間」と違いがわからないくらいである。

それを「うす気味悪い・・・」と拒絶する生理を、単なる習慣の問題としてとらえるのか、自己認識の裏返しと取るのかの議論も、今や日常化している。

作者の産み出した「ロボット＝プライム」は、私たち人間のはかない欲望をインプットされ、ぎくしゃくと、予定調和の中を進んで行く。

現代よりもさらに少しだけ未来の家族を描いた『プライムたちの夜』は、プライムを巡り、人間の深い孤独、夫婦・親子の葛藤や絆を描きだし、そして美しい記憶の郷愁に彩られた「人間賛歌」である。

プライムを作り出すことを含めて、人間の営みを愛おしく思える舞台にしたい。

スタッフ プロフィール

ジョーダン・ハリソン

Jordan HARRISON

アメリカの劇作家。ニューヨーク在住。

2003年頃より劇作を始め、これまでにルイスヴィル、サン・フランシスコ、ミネアポリスなどで上演されている。2007年にはオフブロードウェイに進出。

本作『マージョリー・プライム』は2014年、ロス・アンジェルズで初演され、翌年、ピューリッツァー賞の最終候補に残った。またマイケル・アルメレイダ脚本・監督で映画化もされている。

常田景子

TSUNEDA Keiko

東京大学文学部心理学科卒。在学中、劇団夢の遊眠社に入団。文学座附属演劇研究所20期。木山事務所、NOISEなどで俳優として活動しながら翻訳を始め、パルコ劇場制作部を経て、現在は演劇脚本を中心に翻訳に携わる。

初上演作品は1993年『滅びかけた人類、その愛と本質とは…』、2001年第8回湯浅芳子賞、翻訳・脚色部門受賞。近年の主な作品に『ヒストリーボーイズ』『エンロン』『ピアフ』『太陽に灼かれて』『姉妹たちの庭で』『グレンギャリー・グレン・ロス』『6週間のダンスレッスン』『シカゴ』『デモクラシー』など。新国立劇場では『やけたトタン屋根の上の猫』『負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—』『永遠の瞬間—Time Stands Still—』を翻訳。主な翻訳書に『ヴェードゥーの神々』『戯曲の読み方』『現代戯曲の設計』『リディキュラス!』など。



宮田慶子

MIYATA Keiko

※2ページを参照



2017 年 12 月

<再演>

かがみのかなたはたなかのなかに

Original Production 2015

Kagami no Kanata wa Tanaka no Nakani

小劇場

●こども優先販売期間(会員先行): 2017 年 7/23(日)~8/7(月)

●こども優先発売日: 2017 年 8/11(金・祝)

●会員先行販売期間: 2017 年 10/9(月・祝)~10/17(火)

●一般発売日: 2017 年 10/21(土)

作・演出: 長塚圭史

Written and Directed by NAGATSUKA Keishi

振付・音楽: 近藤良平

Choreography and Music by KONDO Ryohei

出演: 近藤良平 首藤康之 長塚圭史 松たか子

Cast: KONDO Ryohei, SHUTO Yasuyuki, NAGATSUKA Keishi, MATSU Takako

企画意図

鏡の向こう側にいる「私」はだれ? そこにはどんな世界が広がっているの?

2015年7月に上演され大好評を博した、「鏡」をモチーフにしたお芝居『かがみのかなたはたなかのなかに』が小劇場にかえってきます。12年12月~13年1月に上演された『音のいない世界で』と同じメンバーが結集して創り上げた、子どももおとなも一緒に楽しめる演劇・第二弾の再演です。合わせ鏡の中の自分、うまくいかない恋、はがれ落ちない孤独感……未来のおとなと、かつての子どもたちへ向けにおおくりする、少しビターで、少しファンタジックで、そして少しアイロニカルな物語。日常を抜け出して、劇場という不思議の世界を、お子様とご一緒にお楽しみいただける企画です。

作品

兵隊さんのたなかと、鏡のむこうのかなたは、おたがいの孤独に同情し、さみしさをなぐさめあう。

ある日たなかは、鏡の向こうのけいこにひとめぼれ。つられてかなたもけいこに恋をする。

向こうでかなたがけいこに近づくと、たなかはこちらでこいけに近づいてしまう。

こいけは鏡にうつったけいこ。こいけはけいことは比べものにならない。

けいこを取りあふふたり。それがだんだんうれしくなるけいこ。

鏡をはさんで、たなかとかなた、けいことこいけは行ったり来たり……。

はたして4人はどうなってしまうのでしょうか?

作・演出家からのメッセージ

長塚圭史

2015年に上演いたしました、あのちょっぴり怖くてせつない、海軍士官のさびしさと、ピザ屋のけいことこいけの、おかしなおかしなかがみの物語。こんなにおかしな作品はすぐにも日本全国にお届けしたい！と早速の再演です。前回はたくさんの親子連れのお客さまにご来場いただき、カンパニー一同たいへん楽しい思いをしました。とにかく子どもたちの発見の素早さ、鋭さには唖られます。舞台上で僕たちも冷や冷やしたり、思わず吹き出しそうになってしまったり。そう！ お客さまも、子どもたちの反応に大笑いしたりして！ 決して楽しい、やさしいだけではない、孤独や、怒りや、ねたみも詰まったこの『かがみのかなたはたなかのなかに』。でもきっと、このお芝居を見たあとには、かがみの向こう側が輝いて、すーっとどこまでも広がってゆくはずです。さあ、孤独な海軍士官と一緒に、かがみの向こうへ足を踏み入れてみませんか？

振付家からのメッセージ

近藤良平

長塚圭史さんの試みは色々ありますが、これはいい案配に初めて観る方にもきっと受け入れられる「楽しみのヒント」みたいなものがたくさん散りばめられています。

昔からたくさんの人たちが、「鏡のナゾ」に取り組み、作品にしてきました。我々もいかに鏡の中に入っていくか！大まじめに考え考え向かいました。たった4人で、何百人かもしれないし1人かもしれない。そんな世界をリアルな劇場で楽しんでもくれたらと思います。

そう！創った曲も突然出てくる踊りも少し変で面白いです。松さんの振る舞いにびっくりし、首藤さんの細かさに感動し、近藤さんの珍しい丁寧な動き、そして何よりも奇妙な長塚圭史さんのインパクトにやられてしまいます。「ありそうである！」この舞台は、やっぱり楽しい出来事だと思います。



2015年公演より（撮影：谷古宇正彦）

スタッフ プロフィール

長塚圭史

NAGATSUKA Keishi

1996年、演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」を結成、作・演出・出演の三役を担う。2008年、文化庁新進芸術家海外研修制度にて1年間ロンドンに留学。帰国後の11年、ソロプロジェクト「葛河思潮社」を始動、これまでに『浮標』『冒した者』『背信』を上演している。近年の主な演出作品に『マクベス』『鮑』『蛙昇天』などのほか、パルコ『ツインズ』では作・演出を、KAAT『夢の劇・ドリーム・ブレイ』では台本・出演を務めたほか、ドラマ『グーグーだって猫である』『Dr.倫太郎』などに出演、アニメ『バケモノの子』では声優デビューを果たした。また、雑誌「BAILA」「Precious」連載やTOKYO FM『yes! ～明日への便り』レギュラー出演など、多方面で活躍している。



近藤良平

KONDO Ryohei

父の仕事の関係で幼少期に南米にわたり、日本、ペルー、チリ、アルゼンチンで育つ。1996年にダンスカンパニー「コンドルズ」を旗揚げ、すべての作品の構成・演出を手掛ける。ミュージカル、CM、コンサートなど幅広いジャンルで振付家として活躍。2007年、NODA・MAP『THE BEE』で俳優としてもデビューを飾り、映画『ブタがいた教室』にも出演。近年はNHK『あそんどうず』『からだであそぼ』『サラリーマンNEO』などでも注目を集めている。また

立教大学、桜美林大学などで非常勤講師としてダンスの指導を行いつつ、全国各地でワークショップを行うなど、多岐にわたる活動を展開中。愛犬家。



2018 年 3 月
＜日本初演＞
Japan Premiere

赤道の下のマクベス

Macbeth on the Equator
小劇場

●会員先行販売期間：2018 年 1/8(月・祝)～1/16(火)
●一般発売日：2018 年 1/20(土)

作・演出：鄭 義信

Written and Directed by CHONG Wishing

出演：池内博之 浅野雅博 ほか

Cast : IKEUCHI Hiroyuki, ASANO Masahiro and others

企画意図

鄭義信が新国立劇場に書き下ろした、1950～1970年代にかけて戦後の影の日本史を描いた三部作『たとえば野に咲く花のように』『パーマ屋スマレ』『焼肉ドラゴン』に遡る第四弾。

1947年、シンガポール、チャンギ刑務所で、第二次世界大戦のBC級戦犯として収容されていた日本人と元日本人だった朝鮮人の物語です。捕虜への暴力や住民の殺害などの残虐行為の命令者・実行者がBC級戦犯の対象となり、そこには日本人だけではなく、朝鮮や台湾の捕虜監視員もいたのです。

本作は、2010年、韓国ソウルの明洞芸術劇場で、鄭義信書き下ろし、ソン・ジンチュク演出で韓国語にて初演され、北京公演も行いました。今回は新国立劇場上演のために大幅に改訂、日本初演でお届けします。いつも庶民の側から温かくも鋭いまなざしで大きな世界を描く熱い鄭義信ワールド。

戦争とは、国家とは……鄭義信が新たに描く「記録する演劇」にどうぞご期待ください。

作 品

1947 年夏、シンガポール、チャンギ刑務所。

死刑囚のみが集められた監獄 P ホールは、演劇にあこがれ、ぼろぼろになるまでシェイクスピアの『マクベス』を読んでいた朴南星^{パクナムソン}、戦犯となった自分の身を嘆いてはめそめそ泣く李文平^{イムンピョン}、一度無罪で釈放されたにも関わらず、またつかまり二度目の死刑判決を受けるはめになった金春吉^{キムチュンギル}など朝鮮人の元捕虜監視員と、元日本軍人の山形や黒田など、複雑なメンバーで構成されていた。

BC 級戦犯である彼らは、わずかばかりの食料に腹をすかし、時には看守からのリンチを受け、肉体的にも精神的にも熾烈極まる日々を送っていた。

ただただ死刑執行を待つ日々……そして、ついにその日が訪れた時……。

作・演出家からのメッセージ

鄭 義信

第二次世界大戦の日本人 BC 級戦争犯罪の件数と人数は、『戦争犯罪裁判概史要』（法務大臣官房司法法制調査部編刊、1973 年）によると、裁判件数は 2244 件、起訴されたのは 5700 人、このうち 984 人が絞首刑や銃殺刑の判決を受けている。この中には朝鮮人と台湾人がいたことは、あまり知られていないだろう。朝鮮人 148 名、台湾人 173 名が有罪となり、朝鮮人の死刑者は 23 人いる。彼らは日本人として断罪された。

朝鮮人 BC 級戦犯の話をどこから聞いたのか忘れてしまった。けれど、戦後釈放された朝鮮人 BC 級戦犯の一人が、故郷を訪問した話がずっと頭にこびりついていて。彼は父親の訃報を聞いて、矢も盾もたまらず故郷に駆けつけた。しかし、母親から「おまえが帰ってきたことを知られたら、わたしたちが村の人たちから非難される。家族の迷惑になるから、家には来ないでくれ」と弔問を断られ、泣く泣くまた日本に戻ってきたという。朝鮮人 BC 級戦犯は韓国では親日協力者の烙印を押され、その家族さえ村八分となっていたのだ。

僕の父も戦時中、憲兵をやっていた。そのため、父の父（つまりは僕の祖父）は村八分となった。祖父は亡くなった後も、村の共同墓地にさえ入れてもらうことができなかった。戦後半世紀経ってから実家を訪ねた父は、朽ち果てた祖父の墓標を目にして、大泣きしたそうだ。それゆえ、朝鮮人 BC 級戦犯の話はひどく切なく、僕には他人事とは思えなかった。

突き動かされるように、『キムはなぜ裁かれたのか―朝鮮人 BC 級戦犯の軌跡』の著者である内海愛子さんを訪ね、今もご存命であるという R さんを紹介していただいた。

R さんは同じく BC 級戦犯となった朝鮮人たちといっしょに東京郊外でタクシー会社を興していた。生きていくため、食べていくために、彼らは共同で立ち向かわなくてはならなかった。朝鮮人 BC 級戦犯の話を開かせてください、と突然に訪問した僕を、R さんは微塵も拒む様子もなく、笑顔で迎え入れてくれた。ちょうど昼時で出前までとっていただきながら、僕は R さんから話を伺うことができた。その数奇で過酷な運命に、僕はただただ耳を傾けるだけだった。

R さんは戦争中に強制動員され、映画『戦場にかける橋』で有名な泰緬鉄道（タイとミャンマーを結ぶ約 415 キロの鉄道）の連合軍捕虜の監視員となった。そこは粗末な衣食住、衣料品不足、過酷な労働、そして、コレラをはじめ伝染病の蔓延と……地獄のような場所であった。そのため、泰緬鉄道に投入された捕虜 4 万 8296 人のうち約 30 パーセントを越える 1 万 6000 人が犠牲となった。この捕虜監視の矢面に立たされていたのが、朝鮮人、台湾人たちだったのだ。

R さんは戦後、BC 級戦犯として死刑判決を二度も受けながら、20 年に減刑され、戦後 27 名の朝鮮人戦犯といっしょに巣鴨刑務所に移送された。1956 年にようやく釈放されるも、やはり親日協力者ということで、祖国に帰ることはかなわなかった。名誉回復を求める日本での訴訟は、日韓基本条約による請求権喪失で敗訴した。2006 年、韓国政府は R さんたちを日本による強制動員被害者として認定した。しかし、日本政府は名誉回復の要請にまだに沈黙を守っている。

泰緬鉄道第五分所の監視員だったチョ・ムンサンは 1947 年 2 月 25 日、具体的な物証もないまま、証言だけで行われた裁判で死刑判決を受け、「おれには自分のものはひとつもない」と遺書を残して、死刑台の露と消えた。R さんは奇跡的に助かったと言えるだろう。しかし、死んでいった者たちにも、生き残った者たちにも、歴史は厳しい試練を課した。

忘れ去られ、消え去ろうとする彼ら朝鮮人 BC 級戦犯の苦しみ、かなしみ、痛みをほんのひと握りでも掬い取ることができたらと思う。そして、過去を振り返ることで、日本と韓国の未来について、ほんのひと握りでも考える手立てになればとも思っている。

スタッフ プロフィール

鄭 義信

CHONG Wishing

1993年に『ザ・寺山』で第38回岸田國士戯曲賞受賞。その一方、映画に進出して、同年『月はどっちに出ている』の脚本で毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第一回菊島隆三賞、アジア太平洋映画祭最優秀脚本賞など数々の賞を受賞した。

新国立劇場では『たとえば野に咲く花のように』『アジア温泉』の作、『焼肉ドラゴン』『パーマ屋スマイル』の作・演出を務め、初演の『焼肉ドラゴン』で、第16回読売演劇大賞優秀演出家賞、第12回鶴屋南北戯曲賞、第43回紀伊國屋演劇賞、第59回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。近年では『僕に炎の戦車を』『しゃばけ』『さらば八月の大地』と話題作を生み出している。2014年春、紫綬褒章受賞。



1984

Nineteen Eighty-Four

小劇場

2018 年 4～5 月

<日本初演>

Japan Premiere

●会員先行販売期間：2018 年 1/28(日)～2/14(水)

●一般発売日：2018 年 2/18(日)

原作：ジョージ・オーウェル

作：ロバート・アイク ダンカン・マクミラン

翻訳：平川大作

演出：小川絵梨子

出演：井上芳雄 ほか

Original by George ORWELL

Written by Robert ICKE and Duncan MACMILLAN

Translated by HIRAKAWA Daisaku

Directed by OGAWA Eriko

Cast : INOUE Yoshio and others

企画意図

『プライムたちの夜』に続く、現代欧米戯曲の日本未発表作品を上演する企画第6弾。2014年にオリヴィエ賞にノミネートされた秀作『1984』を取り上げます。

1948年に執筆された、ジョージ・オーウェルの傑作小説『1984』を元に、その小説の中にある“附録”に記された「ニュースピークの諸原理」の意義に迫って戯曲化した意欲作。核戦争後の全ての人々が監視され統制されている1984年の社会を“附録”が書かれたと思われる2050年以降に生きる人々が分析するという形を取りながら小説の世界に入っていくという手法を取っています。

演出には、新国立劇場で『OPUS／作品』、『星ノ数ホド』を演出し、2016年9月に新国立劇場演劇芸術参与に就任した小川絵梨子があたります。

作品

時は 2050 年以降の世界。人々が小説『1984』とその“附録”「ニュースピークの諸原理」について分析している。過去現在未来を物語り、やがて小説の世界へと入って行く…。

1984 年。1950 年代に発生した核戦争によって、世界はオセアニア、ユーラシア、イースタシアの 3 つの超大国により分割統治されており、その 3 国間で絶え間なく戦争が繰り返されていた。オセアニアでは思想、言語、結婚等全てが統制され、市民は“ビッグブラザー”を頂点とする党によって、常に全ての行動が監視されていた。

真理省の役人、ウィンストン・スミスは、ノートに自分の考えを書いて整理するという、発覚すれば死刑となる行為に手を染め、やがて党への不信感をつのらせ、同じ考えを持ったジュリアと行動をともにするようになる。

ある日、ウィンストンは、高級官僚オブライエンと出会い、現体制に疑問を持っていることを告白する。すると反政府地下組織を指揮しているエマニュエル・ゴールドスタインが書いたとされる禁書を渡され、体制の裏側を知るようになる。

はたして、この“附録”は誰によって、どのように書かれたのか？ それは真実なのか？ そして今、この世界で、何が、どれが真実なのだと、いったい誰がどうやって分かるのだろうか……。

翻訳家からのメッセージ**平川大作**

1948年にジョージ・オーウェルが執筆し、翌年刊行された長編小説『1984年』に基づいて、2013年にロバート・アイクとダンカン・マクミランが作り上げた翻案舞台作品、それが『1984』です。アイクとマクミランが注目したのは『1984年』の末尾に掲載されている「附録」が「2050年」という年号で締めくくられていることでした。二人はそれと同じ手つきで戯曲『1984』の自著解説の署名に続けて「2050年9月」と記しています。この戯曲は未来からやってきたということなののでしょうか？ いくつもの年号が飛び交ってややこしい限りです。

オーウェルが執筆当時、未来への警告として描いたディストピアは、気が付けばまさに私たちが生きる世界の一部、あるいはそのすぐ延長線上に見える世界になりました。超管理社会、言語と思想の根源的な統制、戦争と安定を共存させる統治戦略、権力機構とメディアの一体化、個人の自由を抑圧する隠微にして徹底的なプロセス、巧みに操作される大衆の憎悪、虚像と化した政治的偶像。1983年の次の年が「1984年」なのではなく、全体主義的国家体制が悪夢の様相を帯びるとき、そこは常に「1984年」なのです。

ネットにより包括され存在させられたものが「世界」と呼ばれかねないこのデジタルの時代に、もしオーウェルが生きていたらどんな『1984年』が生まれたことでしょうか。私が思うに彼は21世紀的なテクノロジーの全てを『1984年』で描いた世界観にいとたやすく統合してしまう気がします。想像力のディティールがヴァージョン・アップされながらも、戦慄と戦いの物語の枠組はなんら変化することがなく迫真力を増したはず。

しかしながら、オーウェルといえども、政治体制の恐怖を批判的に検証した自分の作品がイースタシアの果て、日本において新「国立」劇場によって上演されるというアイロニカルな状況は想定していなかったはず。単なる政治的寓話の芝居なのか、極めて洗練された自戒の警鐘なのか。今はただ日本の『1984』の未来を楽しみにしています。

演出家からのメッセージ**小川絵梨子**

本作はジョージ・オーウェルが1948年に執筆、最後の著作となった小説『1984』を翻案したものです。「戦争とは平和である」「自由とは服従である」「無知とは力である」という恐ろしいスローガンを掲げる政党が支配する国で、ある普通の一人の男が個人を失い、やがて全体に飲み込まれていく様が描かれます。個人と国家、一つの心と巨大なイデオロギーの対比と緊張を描くこの物語は、全体主義が支配する架空の近未来を舞台に描かれてはいますが、今日の私たちにとって背筋がぞっとするような恐怖と焦りを覚えざるを得ません。この作品を今のこの日本で上演する意味は多大にあると、私は信じています。

スタッフ プロフィール

ジョージ・オーウェル

George ORWELL

本名エリック・アーサー・ブレア。作家、ジャーナリスト。1903-1950。インド生まれ。22年から27年までビルマのインド帝国警察に勤め、後に自身初となる小説『ビルマの日々』（1934）を執筆。33年、『パリ・ロンドン放浪記』を出版。36年にはランカシャーとヨークシャーの大量失業地区を訪れ、そこで目撃した貧困の現実を『ウィガン波止場への道』（1937）で記す。36年の終わり、内戦時のスペインに赴き共和制のために戦うが負傷。その時の体験を『カタロニア讃歌』（1938）で綴る。療養のため滞在したモロッコで『空気をもとめて』（1939）を執筆。第二次世界大戦中は民兵組織ホーム・ガードに所属し、41年から43年まではBBC東洋部に勤める。終戦後は「トリビューン」紙の文芸編集者として定期的に寄稿するほか、「オブザーバー」紙、「マンチェスター・イブニング・ニュース」紙にも記事を書いた。政治を寓話化した『動物農場』が45年に、48年に執筆した『1984年』が翌49年に出版され、世界的な名声を得る。1950年1月、ロンドンにて死去。作品は80ヶ国語以上で翻訳されており、20世紀の最も影響力のある英語圏作家の一人に数えられる。

ロバート・アイク

Robert ICKE

イギリスの劇作家・演出家。現在、アルメイダ劇場のアソシエイト・ディレクター。『1984』で、2013年リヴァプール・アート・アワード最優秀演出家賞、2014年UKシアター・アワード最優秀演出家賞を受賞、同作は2014年オリヴィエ賞、優秀新作戯曲賞にノミネートもされている。また『オレスティア』で2015年、英国演劇批評家賞、イブニング・スタンダード演劇賞最優秀演出家賞、2016年オリヴィエ賞最優秀演出家賞を受賞。

ダンカン・マクミラン

Duncan MACMILLAN

イギリスの劇作家・演出家。舞台のみならず、ラジオドラマ、テレビ、映画など多数の作品を生み出している。ロバート・アイクと共作した『1984』で、2013年リヴァプール・アート・アワード最優秀演出家賞、2014年UKシアター・アワード最優秀演出家賞を受賞、同作は2014年オリヴィエ賞、優秀新作戯曲賞にノミネートもされているほか、オフ・ウェストエンド・アワード、オールド・ヴィック ビッグ・アンビション・アワードなど受賞歴多数。

スタッフ プロフィール

平川大作

HIRAKAWA Daisaku

九州大学文学部、大阪大学大学院演劇専攻で学び、「ひょうご舞台芸術」に調査研究員として参加。2000年より大手前大学に勤務。メディア・芸術学部教授。11年『モジョ ミキボー』で第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞。そのほかの主な翻訳作品に『扉を開けて、ミスター・グリーン』『アテンプツ・オン・ハー・ライフ』など。新国立劇場では『コペンハーゲン』『OPUS／作品』『バグダッド動物園のベンガルタイガー』『フリック』の翻訳を手掛けている



小川絵梨子

OGAWA Eriko

1978年生まれ。2004年、ニューヨークのアクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。10年『今は亡きヘンリー・モス』（翻訳・演出）で第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞。12年『12人～奇跡の物語～』『夜の来訪者』『プライド』の演出で第19回読売演劇大賞優秀演出家賞、杉村春子賞を受賞。14年『ピロマン』『帰郷—The Homecoming—』、新国立劇場『OPUS／作品』の演出で第48回紀伊國屋演劇賞個人賞、第16回千田是也賞、第21回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。近年の主な演出作品に『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』『コペンハーゲン』など。新国立劇場では『OPUS／作品』『星ノ数ホド』を演出。16年9月より新国立劇場演劇芸術参与。



2018 年 5～6 月

ヘンリー五世

Henry V

中劇場

●会員先行販売期間：2018 年 2/12(月・祝)～2/27(火)

●一般発売日：2018 年 3/3(土)

作：ウィリアム・シェイクスピア

Written by William SHAKESPEARE

翻訳：小田島雄志

Translated by ODASHIMA Yushi

演出：鶴山 仁

Directed by UYAMA Hitoshi

出演：浦井健治 岡本健一 中嶋朋子 中嶋しゅう ほか

Cast : URAI Kenji, OKAMOTO Kenichi, NAKAJIMA Tomoko, NAKAJIMA Shu and others

企画意図

2009年『ヘンリー六世』、2012年『リチャード三世』と、新国立劇場ではシェイクスピアの歴史劇に取り組み、『ヘンリー六世』三部作の通し上演での充実した成果など、演劇界の話題と注目を集めました。また、去年は新たなシリーズの幕開けとして『ヘンリー四世』二部作を上演し、こちらの通し上演も大きな話題となったことが、記憶に新しいところです。

そして、今回はその続編となる『ヘンリー五世』が満を持して登場します。この作品では、前作のラストで新王に即位したヘンリー五世が内政の基礎を固め、さらに隣国フランスへの遠征に出向き、華々しい戦果を上げる様が生き活きと描かれます。我が国での上演頻度は決して高くありませんが、本国イギリスでは人気の作品で、著名俳優によって何度も上演され、また映画化もされている、まさに秘中の佳作ともいえる作品でしょう。

出演も、前作で主役を務めた浦井健治がそのまま新王を演じ、演出の鶴山仁以下、充実のスタッフ、キャストでお贈りします。

作品

即位したばかりのヘンリー五世の宮廷にフランスからの使節が訪れる。さきごろヘンリーの曾祖父エドワード三世の権利に基づき要求した公爵領への返事を、フランス皇太子から遣わされたのだ。そこにはヘンリーの要求への拒否だけでなく、贈呈として宝箱一箱が添えられていた。中身は、一杯に詰められたテニスボール。それは、若き日のヘンリーの放埒を皮肉った、皇太子からの侮蔑だった。それを見たヘンリーは、ただちにフランスへの進軍を開始する。

演出家からのメッセージ

鵜山 仁

ヘンリー四世の死去とヘンリー五世の戴冠によって、やっと平和と安定を手に入れたかと思えたイングランドに、たちまち次なる戦いの足音が忍び寄る。

隣国フランスへの遠征が新たな火種となり、やがて薔薇戦争へと続く大抗争への扉を開いてしまうのだ。

国内の葛藤を海外派兵で解消しようとする矛盾が、かえって英仏両国の国家意識を呼び起こし、更にそれが一人ひとりの国民の、人権意識の目覚めにつながる。そういう意味で近代の誕生と近代の葛藤が、既にこの歴史には内包されている。

近代に連なるわれわれも、そうした葛藤から解放されたわけではない。好戦か厭戦か、国か個人かという普遍的な問いに対して、いまだに一方的な答えは見出せない。

この世界と人間とについての深い謎と魅力をたたえて、『ヘンリー五世』はわれわれに迫ってくる。

スタッフ プロフィール

ウィリアム・シェイクスピア

William SHAKESPEARE

イギリス、エリザベス朝の劇作家、詩人。1564年－1616年。

生涯に37本を越える劇作を残し、死後出版された全集ではその作品が歴史劇、悲劇、喜劇に分類された。そのうち歴史劇は10本を数え、イギリスの王権史に題材をとった『ジョン王』『リチャード二世』『ヘンリー四世』第一部、第二部、『ヘンリー五世』『ヘンリー六世』第一部、第二部、第三部、『リチャード三世』『ヘンリー八世』がある。執筆された順から『リチャード二世』『ヘンリー四世』二部作、『ヘンリー五世』を「第2四部作」と呼ぶこともある。

37本の作品群は21世紀の今日に至るまで、本国イギリスは言うに及ばず全世界で上演され続けている。我が国でも、明治期に翻案作品が紹介されて以来さまざまな形で上演され、歌舞伎から小劇場の公演まで広範囲に影響を与えている。

鵜山 仁

UYAMA Hitoshi

舞台芸術学院、文学座附属研究所を経て、1981年、文学座座員に。83年から1年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。毎日芸術賞千田是也賞、紀伊國屋演劇賞個人賞など、受賞多数。最近の演出作品に『ペリクリーズ』『廃墟』『トロイラスとクレシダ』『マンザナ、わが町』『街と飛行船』『ヴェニスの商人』『何かいけないことをしましたでしょうか？』という私たちのハナシ。』『幽霊』など。

新国立劇場では、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『コペンハーゲン』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢 イリュージョン・コミック』『現代能楽集 鵜』『ヘンリー六世』三部作、『イロアセル』『リチャード三世』『桜の園』『ヘンリー四世』二部作、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出。

『ヘンリー六世』の演出で2010年芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞 最優秀演出家賞などを受賞。昨年は16年第23回読売演劇大賞 最優秀演出家賞を受賞。07年9月より10年8月まで新国立劇場演劇部門芸術監督を務めた。



夢の裂け目

Yume no Sakeme

小劇場

2018 年 6 月

<再演>

Original Production 2001

●会員先行販売期間：2018 年 3/24(土)～4/3(火)

●一般発売日：2018 年 4/7(土)

作：井上ひさし

Written by INOUE Hisashi

演出：栗山民也

Directed by KURIYAMA Tamiya

出演：段田安則 木場勝己 ほか

Cast : DANTA Yasunori, KIBA Katsumi and others

企画意図

『夢の裂け目』は、2001 年に「時代と記憶」シリーズのひとつとして書き下ろされ、続いて、03 年『夢の泪』、06 年『夢の疵』と、市井の人々の生活から東京裁判の、そして戦争の真実を問うた「東京裁判」三部作が生まれました。その後、2010 年に「人はなぜ戦うのか」をテーマに三部作を一挙連続上演、改めて、風化させてはならない記憶、国家と国民の関係を描き、今新たに「日本人とは」ということを問いかける作品として高い評価を得ました。

そして、新国立劇場開場 20 周年の今シーズン、劇場の財産として継承すべき 1 本として、本作を上演いたします。今回はキャストをほぼ一新し、歴史的な裁判に巻き込まれてしまった庶民、主人公の紙芝居屋に段田安則を迎えました。笑いと音楽をふんだんに盛り込んだ、深くて面白い井上流・重喜劇、新生『夢の裂け目』の誕生です。

作品

昭和 21 年 6 月から 7 月にかけて、奇跡的に焼け残った街、東京・根津の紙芝居屋の親方、天声こと田中留吉に起こった、滑稽で恐ろしい出来事。ある日突然GHQから東京裁判に検察側の証人として出廷を命じられた天声は、民間検事局勤務の川口ミドリから口述書をとられ震えあがる。家中の者を総動員して「極東国際軍事法廷証人心得」を脚本がわりに予行演習が始まる。そのうち熱が入り、家の中が天声や周囲の人間の〈国民としての戦争犯罪を裁く家庭法廷〉といった様相を呈し始める。そして出廷の日。東条英機らの前で大過なく証言を済ませた天声は、東京裁判の持つ構造に重大なカラクリがあることを発見するのだが……。

演出家からのメッセージ

栗山民也

この『夢の裂け目』の再演は、2010年4月新国立の小劇場において上演された。東京裁判を主題とした三部作の一挙上演の、一作目であった。

その初日の終演後、楽屋でスタッフ、キャスト一同でささやかな乾杯があり、帰宅したのは深夜だった。まもなくして、一本の電話があった。そして、作者である井上ひさしの死を知った。だから、この作品のすべてが強く深い悲しみの記憶となって、今も全身に刻まれている。

この作品のカーテンコールで、クルト・ワイルの「マック・ザ・ナイフ」が、歌われる。これは作者の指定で、その曲に「劇場は、夢を見るところ・・・」という劇場賛歌の歌詞が、井上さんによって新たに書かれた。だが、劇中では、夢のことごとくは、裂かれていく。そんな日本人の夢と、その後の日本人の罪、そして責任を綴った物語である。幾度となく、いろいろなことを思い返さねばならないと、歴史を刻んだ大事なモニュメントの前に立つような気分だ。

スタッフ プロフィール

井上ひさし

INOUE Hisashi

1934年山形生まれ。64年よりNHKテレビ『ひょっこりひょうたん島』の台本を共同執筆。69年『日本人のへそ』で演劇界デビュー。72年『手鎖心中』の直木賞を始め、数々の文学・戯曲賞を受賞。81年発表の『吉里吉里人』は日本中に独立国ブームを巻き起こした。小説、戯曲、エッセーの執筆にとどまらず、社会的発言も多く、その活動は広範囲に及んだ。84年劇団こまつ座を旗揚げ。新国立劇場には97年の柿落し公演『紙屋町さくらホテル』以降、「東京裁判三部作」『箱根強羅ホテル』の五作品を書き下ろした。『井上ひさし全芝居』（全7巻）に収録の戯曲は70本に及ぶ。2010年逝去。蔵書をもとに作られた故郷山形県川西町の遅筆堂文庫では、毎年4月に吉里吉里忌を開催している。

栗山民也

KURIYAMA Tamiya

※6ページを参照



2018 年 7 月
＜新作＞
New Play

蓬萊竜太新作

A New Play by Horai Ryuta

小劇場

●会員先行販売期間：2018 年 4/21(土)～5/8(火)

●一般発売日：2018 年 5/12(土)

作：蓬萊竜太

Written by HORAI Ryuta

演出：宮田慶子

Directed by MIYATA Keiko

企画意図

宮田慶子が演劇芸術監督としての最終シーズン、掉尾を飾るのは、劇作家・蓬萊竜太による書き下ろしです。8 年間、新国立劇場の演劇芸術監督を務めてきた宮田が提案したのは、声高に問題提起するのではなく、提起すべき問題が自然と浮き彫りになってくるような、「現在」を見つめる戯曲。ますます磨きのかかってきた蓬萊竜太が、どう応えるのか、ご期待ください。

翻訳家からのメッセージ

蓬萊竜太

新国立で新作を書かせてもらえるのは嬉しい。そして新作というものは怖い。数ある名作からチョイスして再演することとは根本的に作業が違う。

劇作は勿論、演出、役者、スタッフの演劇作業が違う。まだ誰にも見せたことのないものを創る。まだ誰も演じたことのない役を演じる。宮田さんが芸術監督最後の仕事として「新作を創る」ことを選ばれたことは男前なことだと思う。やはり演劇は創らなければ。期待に応えたい。色んな意味で今からドキドキしています。

演出家からのメッセージ

宮田慶子

8年間の任期を締めくくるにあたって、是非とも「日本の戯曲」を、そして是非とも同時代の劇作家の新作書き下ろしを、ラインナップとして企画したいと思った。

そして、もちろん自分自身で演出に当たりたいと考えた。

現代の空気を呼吸している・・・、歪みのない視点を持っている・・・、人の体温を知っている・・・、創造に誠実で謙虚で、劇作の腕力がある・・・。

戯曲を蓬萊竜太氏にお願いする事にした。

蓬萊氏は、新国立劇場には『まほろば』（2008・2012）、『エネミイ』（2010）の作、そして2014『ブレス・オブ・ライフ』の演出としてたびたび登場して来た。

実は私自身は、外部のプロデュース公演で、劇作家と演出家として3度、コンビを組んでいる。

その確かな劇作の技術とセンスに心躍り、刺激的な作業を共にさせて頂き、深い信頼を寄せている。

演劇が世の中を映し出す鏡であるとしたならば、今、私たちは、何を考え、何を求め、何に向かおうとしているのか・・・それを率直に、そして演劇的な策略に乗せて、描いてみたいと思う。

ゆっくりと、足下を見つめ直すような、舞台作りになると思う。

スタッフ プロフィール

蓬萊竜太

HORAI Ryuta

1976年生れ、兵庫県出身。99年、劇団「モダンスイマーズ」の旗揚げに参加。以降、すべての作品の作・演出を務める。主な作品に『デンキ島』三部作、『夜光ホテル』『死ンデ、イル』『悲しみよ、消えないでくれ』『嗚呼いま、だから愛』など。劇団外にも、チーム申『時には父のない子のように』、三田村組『イヌよさらば』『男の一生』、アル☆カンパニー『罪』、パルコ劇場『ハンドダウンキッチン』『正しい教室』『星回帰線』などを作・演出。戯曲として、こまつ座&ホリプロ『木の上の軍隊』、パルコ『母と惑星について、および自転する女たちの記録』、WOWOW『パレード』、映画『ピンクとグレー』、テレビドラマ『コールドケース～真実の扉～』の脚本、『ガチ☆ボーイ』原作など、多岐にわたり活躍中。新国立劇場では2008年『まほろば』(第53回岸田國士戯曲賞受賞)、10年『エネミイ』を執筆、14年『プレス・オブ・ライフ～女の肖像～』を演出。



宮田慶子

MIYATA Keiko

※2ページを参照



Drama

公演一覧

開場記念公演～2015/2016 シーズン

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
開場記念公演	★紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子	1997. 10/22
	[蒲田行進曲完結編]銀ちゃんが逝く	つかこうへい		つかこうへい	1997. 11/13
	夜明け前	原作 島崎藤村	脚色 村山知義 補訂脚本 津上 忠	木村光一	1997. 12/04
	リア王	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	鶴山 仁	1998. 1/17
1998/ 1999	★虹を渡る女	岩松 了		岩松 了	1998. 5/07
	幽霊はここにいる	安部公房		串田和美	1998. 5/12
	★今宵かぎりは… 1928 超巴里井主義宣言の夜	竹内統一郎		栗山民也	1998. 6/12
	★音楽劇 ブッダ	原作 手塚治虫	脚本 佐藤 信	栗山民也	1998. 9/07
	THE PIT フェスティバル				
	カストリ・エレジー スタインベック「二十日鼠と人間」 より	脚本 鐘下辰男		鐘下辰男	1998. 10/03
	神々の国の首都	坂手洋二		坂手洋二	1998. 10/17
	寿歌	北村 想		北村 想	1998. 10/29
	ディア・ライアー すてきな嘘つき	ジェローム・キルティ	丹野郁弓	宮田慶子	1998. 11/04
	野望と夏草	山崎正和		西川信廣	1998. 12/02
	★新・雨月物語		脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	1999. 1/11
	子午線の祀り	木下順二	演出 観世栄夫／内山 鶴／酒井 誠／高瀬精一郎		1999. 2/03
	セツァンの善人	ベルトルト・ブレヒト	松岡和子	串田和美	1999. 5/18
	羅生門	原作 芥川龍之介		構成・演出 渡辺和子	1999. 6/04
	棋人 一チーレン	過 士行	菱沼彬晃	林 兆華	1999. 7/01
1999/ 2000	キーン 或いは狂気と天才	J.P.サルトル 上演台本 栗山民也／江守 徹	鈴木力衛	栗山民也	1999. 10/04
	美しきものの伝説		宮本 研	木村光一	1999. 11/04
	—森本薫の世界—				
	かくて新年は	森本 薫		宮田慶子	1999. 12/08
	怒濤	森本 薫		マキノノゾミ	2000. 1/11
	華々しき一族	森本 薫		鐘下辰男	2000. 2/09
	★新・地獄変	原作 芥川龍之介	脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	2000. 3/23
	なよたけ	加藤道夫		木村光一	2000. 4/11
2000/ 2001	夜への長い旅路	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2000. 5/11
	マクベス	ウィリアム・シェイクスピア	福田恒存翻訳より 潤色 鐘下辰男	鐘下辰男	2000. 9/08
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2000. 10/02
	欲望という名の電車	テネシー・ウィリアムズ	鳴海四郎	栗山民也	2000. 10/20
	シリーズ「時代と記憶」				
	★memorandum メモランダム	構想・構成 ダムタイプ			2000. 11/27
	★母たちの国へ	松田正隆		西川信廣	2001. 1/10
	★ピカドン・キジムナー	坂手洋二		栗山民也	2001. 2/10
	★こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2001. 3/12
	★夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2001. 5/08
	紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子／井上ひさし	2001. 4/04
	賈作・桜の森の満開の下	野田秀樹		野田秀樹	2001. 6/01

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2001/ 2002	海外招待作品 Vol.1 太陽劇団 堤防の上の鼓手	エレーヌ・シクスー	字幕翻訳 松本伊瑳子	アリアヌ・ムヌーシュキン	2001. 9/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2001. 10/29
	★美女で野獣	荻野アンナ		宮田慶子	2001. 12/10
	シリーズ チェーホフ・魂の仕事				
	Vol.1 かもめ	アントン・チェーホフ	英訳 マイケル・フレイン 翻訳 小田島雄志	マキノノゾミ	2002. 1/11
	Vol.2 くしゃみ／the Sneeze	アントン・チェーホフ	台本 マイケル・フレイン 翻訳 小田島恒志	熊倉一雄	2002. 2/28
	Vol.3 ★「三人姉妹」を追放されし トウゼンバフの物語	岩松 了		岩松 了	2002. 4/01
	Vol.4 ワーニャおじさん 四幕の田園生活劇	アントン・チェーホフ	小野理子	栗山民也	2002. 5/09
	Vol.5 櫻の園	アントン・チェーホフ	潤色 堀越 真(神西清翻訳による)	栗山民也	2002. 6/21
2002/ 2003	★その河をこえて、五月	平田オリザ／金 明和		李 炳熹／平田オリザ	2002. 6/03
	海外招待作品 Vol.2 国際チェーホフ演劇祭 in モスクワ ハムレット	ウィリアム・シェイクスピア		ペーター・シュタイン	2002. 9/07
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2002. 10/11
	★ノヤジルシ ー誘われて	太田省吾		太田省吾	2002. 11/12
	シリーズ「現在へ、日本の劇」				
	①ピルグリム	鴻上尚史		鴻上尚史	2003. 1/14
	②浮標	三好十郎		栗山民也	2003. 2/19
	③マッチ売りの少女	別役 実		坂手洋二	2003. 4/08
	④サド侯爵夫人	三島由紀夫		鐘下辰男	2003. 5/26
	★涙の谷、銀河の丘	松田正隆		栗山民也	2003. 5/13
	★ゴロヴリョフ家の人々	原作 サルティコフ・シCHEDリン	翻訳 湯浅芳子 脚本 永井 愛	永井 愛	2003. 6/18
2003/ 2004	★nocturne ー月下の歩行者	構成 松本雄吉		松本雄吉	2003. 9/08
	★夢の泪	井上ひさし		栗山民也	2003. 10/09
	世阿彌	山崎正和		栗山民也	2003. 11/27
	シリーズ「女と男の風景」				
	①海外招待作品 Vol.3 香港・劇場組合 The Game /ザ・ゲーム	ウジェーヌ・イヨネスコの悲喜劇 『椅子』より 翻案 ジム・チム／ オリヴィア・ヤン	字幕 角田美知代	ジム・チム／ オリヴィア・ヤン	2004. 2/20
	② ★THE OTHER SIDE ／線のむこう側	アリエル・ドーフマン	水谷八也	孫 振策	2004. 4/12
	③★てのひらのこびと		鈴江俊郎	松本祐子	2004. 5/11
	④請願 ー静かな叫びー	ブライアン・クラーク	吉原豊司	木村光一	2004. 6/22
	こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2004. 3/10
	透明人間の蒸気	野田秀樹		野田秀樹	2004. 3/17
	ブロードウェイ・ミュージカル INTO THE WOODS	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2004. 6/09

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2004/ 2005	THE LOFT 小空間からの提案				
	胎内	三好十郎		栗山民也	2004. 10/04
	◎ ★ヒトノカケラ	篠原久美子		宮崎真子	2004. 10/22
	★二人の女兵士の物語	坂手洋二		坂手洋二	2004. 11/08
	喪服の似合うエレクトラ	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2004. 11/16
	★城	原作 フランツ・カフカ	構成 松本 修	松本 修	2005. 1/14
	シリーズ 笑い				
	①咲く港	菊田一夫		鶴山 仁	2005. 3/14
	②★コミュニケーションズ 現代劇作家によるコント集	作 綾田俊樹／いとうせいこう／ケラリーノ・サンドロヴィッチ／杉浦久幸 高橋徹郎／竹内 佑／鄭 義信／土田英生／別役 実／ふじきみつ彦／武藤真弓 原作使用 筒井康隆 構成・演出 渡辺えり子			2005. 4/08
	③★箱根強羅ホテル	井上ひさし		栗山民也	2005. 5/19
2005/ 2006	④うら騒ぎ ノイズ・オフ	マイケル・フレイン	小田島恒志	白井 晃	2005. 6/27
	その河をこえて、五月	平田オリザ／金 明和		李 炳燾／平田オリザ	2005. 5/13
	海外招待作品 Vol.4 ベルリナー・アンサンブル アルトゥロ・ウイの興隆	ベルトルト・ブレヒト	イヤホンガイド翻訳 新野守広	ハイナー・ミュラー	2005. 6/22
	◎黒いチューリップ／盲導犬	唐 十 郎		中野敦之	2005. 9/27
	◎屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	2005. 10/31
	母・肝っ玉とその子供たち ー三十年戦争年代記	ベルトルト・ブレヒト	谷川道子	栗山民也	2005. 11/28
	ガラスの動物園	テネシー・ウィリアムズ	小田島雄志	イリーナ・ブルック	2006. 2/09
	十二夜	ウィリアム・シェイクスピア	脚本 山崎清介 小田島雄志翻訳による	山崎清介	2006. 3/07
	シリーズ「われわれは、どこへいくのか」				
	①★カエル	過 士行	菱沼彬晃	鶴山 仁	2006. 4/01
2006/ 2007	◎ ②★マテリアル・ママ		岩松 了	岩松 了	2006. 4/19
	③★やわらかい服を着て	永井 愛		永井 愛	2006. 5/22
	④★夢の痼	井上ひさし		栗山民也	2006. 6/28
	ブロードウェイ・ミュージカル Into the Woods	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2006. 5/19
	★アジアの女	長塚圭史		長塚圭史	2006. 9/28
	「劇的な情念をめぐって」ー世界の名作よりー				
	シラノ・ド・ベルジュラック	原作 エドモン・ロスタン	翻訳 辰野 隆／ 鈴木信太郎	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/02
	イワーノフ／ オイディプス王	原作 アントン・チェーホフ 原作 ソフォクレス	翻訳 池田健太郎 日本語 福田恒存 ドイツ語 ヘルダーリン	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/04
	◎ ★エンジョイ	岡田利規		岡田利規	2006. 12/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2007. 3/01
	★CLEANSKINS /きれいな肌	シャン・カーン	小田島恒志	栗山民也	2007. 4/18
	★下周村 ー花に嵐のたとえもあるさー	平田オリザ／李 六乙		李 六乙／平田オリザ	2007. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	ジョン・ケアード	2007. 5/31
	氷屋来たる	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2007. 6/18

★＝新作 ◎＝THE LOFT 公演

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2007/ 2008	「三つの悲劇」ーギリシャから				
	Vol.1 ★アルゴス坂の白い家 ークリュタイメストラー	川村 毅		鵜山 仁	2007. 9/20
	Vol.2 ★たとえば野に咲く花のように ーアンドロマケー	鄭 義信		鈴木裕美	2007. 10/17
	Vol.3 ★異人の唄 ーアンティゴネー	土田世紀	脚色 鐘下辰男	鐘下辰男	2007. 11/14
	屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	2008. 2/26
	★焼肉ドラゴン	鄭 義信		梁 正雄／鄭 義信	2008. 4/17
	オットーと呼ばれる日本人	木下順二		鵜山 仁	2008. 5/27
	シリーズ・同時代				
	Vol.1 ★鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2008. 6/11
	Vol.2 ★混じりあうこと、消えること	前田司郎		白井 晃	2008. 6/27
	Vol.3 ★まほろば	蓬萊竜太		栗山民也	2008. 7/14
2008/ 2009	近代能楽集『綾の鼓』『弱法師』	三島由紀夫		前田司郎〈綾の鼓〉 深津篤史〈弱法師〉	2008. 9/25
	山の巨人たち	ルイジ・ピランデルロ	翻訳 田之倉稔	ジョルジュ・ラヴオーダン	2008. 10/23
	舞台は夢 ーイリュージョン・コミックー	ピエール・コルネイユ	翻訳 伊藤 洋	鵜山 仁	2008. 12/03
	シリーズ・同時代【海外編】				
	Vol.1 昔の女	ローラント・シンメルブフェニヒ	翻訳 大塚 直	倉持 裕	2009. 3/12
	Vol.2 シュート・ザ・クロウ	オーウェン・マカファーティー	翻訳 浦辺千鶴／ 小田島恒志	田村孝裕	2009. 4/10
	Vol.3 タトゥー	デーア・ローアー	翻訳 三輪玲子	岡田利規	2009. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	ジョン・ケアード	2009. 5/29
	★現代能楽集 鶴	坂手洋二		鵜山 仁	2009. 7/02
2009/ 2010	ヘンリー六世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鵜山 仁	
	第一部 百年戦争				2009. 10/27
	第二部 敗北と混乱				2009. 10/28
	第三部 薔薇戦争				2009. 10/29
	象	別役 実		深津篤史	2010. 3/05
	東京裁判三部作	井上ひさし		栗山民也	
	夢の裂け目				2010. 4/04
	夢の泪				2010. 5/06
	夢の痂かさぶた				2010. 6/03
	★エネミイ	蓬萊竜太		鈴木裕美	2010. 7/01
2010/ 2011	[JAPAN MEETS… ー現代劇の系譜をひもとくー]				
	I ヘッダ・ガーブレル	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス ／長島 確	宮田慶子	2010. 9/17
	II やけたタン屋根の上の猫	テネシー・ウィリアムズ	翻訳 常田景子	松本祐子	2010. 11/09
	III わが町	ソーントン・ワイルダー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2011. 1/13
	IV ゴドーを待ちながら	サミュエル・ベケット	翻訳 岩切正一郎	森 新太郎	2011. 4/15
	焼肉ドラゴン	鄭 義信	翻訳 川原賢柱	鄭 義信	2011. 2/07
	鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2011. 5/10
	雨	井上ひさし		栗山民也	2011. 6/09
	★おどくみ	青木 豪		宮田慶子	2011. 6/27

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2011/ 2012	【美×劇】 —滅びゆくものに託した美意識—				
	I 朱雀家の滅亡	三島由紀夫		宮田慶子	2011. 9/20
	II ★イロアセル	倉持 裕		鶴山 仁	2011. 10/18
	III 天守物語	泉 鏡花		白井 晃	2011. 11/05
	★パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2012. 3/05
	まほろば	蓬萊竜太		栗山民也	2012. 4/02
	負傷者 16 人 —SIXTEEN WOUNDED—	エリウム・クライエム	翻訳 常田景子	宮田慶子	2012. 4/23
	[JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—]				
	V サロメ	オスカー・ワイルド	翻訳 平野啓一郎	宮本亜門	2012. 5/31
	VI 温室	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	深津篤史	2012. 6/26
2012/ 2013	リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2012. 10/03
	[JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—]				
	VII りつぽ	アーサー・ミラー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2012. 10/29
	★音のいない世界で	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2012. 12/23
	長い墓標の列	福田善之		宮田慶子	2013. 3/07
	With —つながる演劇—				
	★ウェルズ編『効率学のススメ』	アラン・ハリス	翻訳 長島 確	ジョン・E・マグラー	2013. 4/09
	★韓国編 アジア温泉	鄭 義信	翻訳 朴 賢淑	孫 振策	2013. 5/10
	★ドイツ編 つく、きえる	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	宮田慶子	2013. 6/04
	象	別役 実		深津篤史	2013. 7/02
2013/ 2014	Try・Angle —三人の演出家の視点—				
	Vol.1 OPUS /作品	マイケル・ホリinger	翻訳 平川大作	小川絵梨子	2013. 9/10
	Vol.2 エドワード二世	クリストファー・マーロウ	翻訳 河合祥一郎	森 新太郎	2013. 10/08
	Vol.3 アルトナの幽閉者	ジャン＝ポール・サルトル	翻訳 岩切正一郎	上村聡史	2014. 2/19
	[JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—]				
	VIII ビグマリオン	ジョージ・バーナード・ショー	翻訳 小田島恒志	宮田慶子	2013. 11/13
	マニラ瑞穂記	秋元松代		栗山民也	2014. 4/03
	テンペスト	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	白井 晃	2014. 5/15
	★十九歳のジェイコブ	原作 中上健次	脚本 松井 周	松本雄吉	2014. 6/11
	永遠の瞬間 —Time Stands Still —	ドナルド・マーグリーズ	翻訳 常田景子	宮田慶子	2014. 7/08
2014/ 2015	[JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—]				
	IX 三文オペラ	ベルトルト・ブレヒト	翻訳 谷川道子	宮田慶子	2014. 9/10
	二人芝居 —対話するカー—				
	Vol.1 プレス・オブ・ライフ～女の肖像～	デイヴィッド・ヘア	翻訳 鴫澤麻由子	蓬萊竜太	2014. 10/08
	Vol.2 ご臨終	モーリス・パニッチ	翻訳 吉原豊司	ノゾエ征爾	2014. 11/05
	Vol.3 星ノ数ホド	ニック・ペイン	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2014. 12/03
	ウィングスロウ・ボーイ	テレンス・ラティガン	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2015. 4/09
	[JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—]				
	X 海の夫人	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス ／長島 確	宮田慶子	2015. 5/13
	東海道四谷怪談	鶴屋南北	上演台本 フジノサツコ	森 新太郎	2015. 6/10
	★かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2015. 7/06

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2015/ 2016	パッション	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェームス・ラパイン	翻訳 浦辺千鶴 訳詞 竜 真知子	宮田慶子	2015. 10/16
	桜の園	アントン・チェーホフ	翻訳 神西 清	鶴山 仁	2015. 11/11
	バグダッド動物園のベンガルタイガー	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 平川大作	中津留章仁	2015. 12/08
	鄭義信 三部作				
	焼肉ドラゴン	鄭 義信		鄭 義信	2016. 3/07
	たとえば野に咲く花のように	鄭 義信		鈴木裕美	2016. 4/06
	パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2016. 5/17
	あわれ彼女は娼婦	ジョン・フォード	翻訳 小田島雄志	栗山民也	2016. 6/08
	★「かぐや姫伝説」より月・こうこう風・そうそう	別役 実		宮田慶子	2016. 7/13
2016/ 2017	フリック	アニー・ベイカー	翻訳 平川大作	マキノノゾミ	2016. 10/13
	ヘンリー四世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 -混沌-				2016. 11/26
	第二部 -戴冠-				2016. 11/27
	かさなる視点 ―日本戯曲のカー				
	Vol.1 白蟻の巣	三島由紀夫		谷 賢一	2017. 3/02
	Vol.2 城塞	安部公房		上村聡史	2017. 4/13
	Vol.3 マリアの首 -幻に長崎を想う曲-	田中千禾夫		小川絵梨子	2017. 5/10
	[JAPAN MEETS... ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	XI 君が人生の時	ウィリアム・サローヤン	翻訳 浦辺千鶴	宮田慶子	2017. 6/13
	XII 怒りをこめてふり返れ	ジョン・オズボーン	翻訳 水谷八也	千葉哲也	2017. 7/12

★＝新作